

認知症地域資源情報集についてのこれまでの委員意見

- ・ 認知症一つをとってみても、どこにどんな先生がいるか、どんな介護サービスがあるのかわからない。認知症に関するサービスや医療機関を地図に落としたものがほしい。
- ・ 入院するともう帰れないというイメージが拭いきれない。そういった不安を軽減するためにも家族に話をする際に、ケアパスのようなものを持って説明できるとご家族の理解も深まると思う。
- ・ 認知症の対応に特化した認知デイや安定した人間関係で介護できる小規模多機能等、在宅で生活する認知症の方がたどり着く先のグループホームやサービスを区民に知っていただきたい。
- ・ 区で収集されている地域資源の情報は、区民の方々や当事者、関係機関の方に早く開示されると良い。
- ・ ご家族の方が、「どういう時期にこのようなサービスが受けられる」とか、「こういったところに相談しましょう」ということが分かるようなケアパスがあると良い。

医療・介護・家族の情報共有ツールについての委員意見

- ・ 現場で困ったときに、それをかかりつけ医等に伝える方法がない。
- ・ 医療と介護の連携では、共有ツールといったものが必要と思う。ノート形式の地域連携パスを取り入れている自治体もあり、そのようなものを作成してほしいと思う。
- ・ 連携ツールは、各職種で欲しい情報が違ったり、どういった言葉で表現するかといった問題もあるが、それぞれが自分の言葉で表現できて、かつ、共有できるものが、生々しいというか生き生きしたものになる。
- ・ 「ただ新しいものを作られてもちょっと難しい」という意見が MSW の方たちからあった。新しいものが出ると、それについてどのように記入するかという検討も必要になり、新しいことは取組み難い。今、患者さんなりと情報共有ツールとして成り立っているのは、お薬手帳である。
- ・ 製薬会社が出している連携ノートをトライしたことがあった。先生の所に行って、ご家族が日常の本人の様子を的確に伝えられていないのでお勧めしたが、記入項目が多いから定着できなかった。
- ・ 小さなシールを予算を使って作り、通所とか小規模とかに配り、情報をお薬手帳に貼るだけの簡単なものでも良い。面倒でないことが長続きのコツ。
- ・ 紛失したらどうするのか、個人情報がすごく重要なものになってくる
- ・ 紙ベースの例として京都の乙訓地区の在宅療養手帳というものがある。手帳の中に医療と介護の情報がすべて入っている。例えば、認知症であればどういう B P S D 症状が見られるか盛り込めるようになっている。在宅療養手帳は、医師会がシリアルナンバーで管理している。IT化だったらどこかのサーバーに預けてということになるが、災害時や緊急時の医療の専門家の情報も盛り込めば、認知症だけではなく役に立つ。